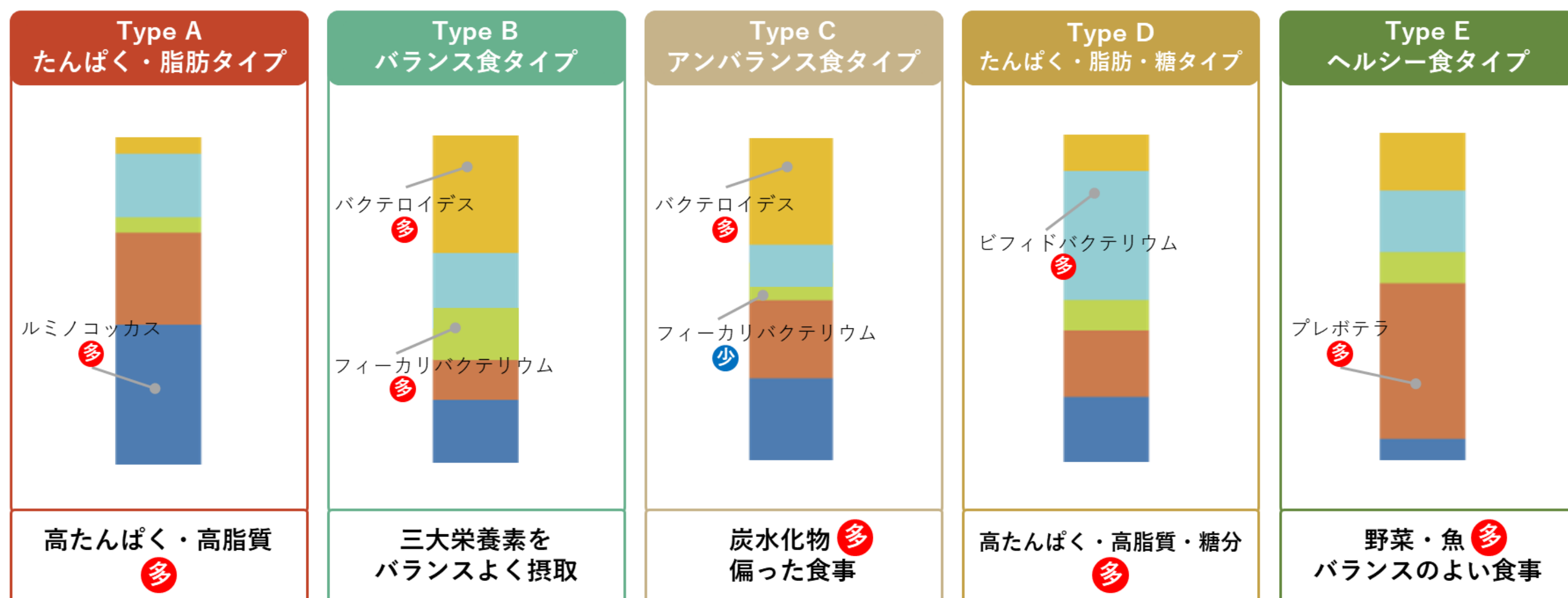


- ・個人差が大きい腸内細菌叢の評価モデル(腸内フローラタイプ分類)を確立※1
- ・評価モデルの根拠となるデータベースは、質の高い背景情報を取得した十分な数の対象者を確保した上で構築※2



※1: 「疾患リスク評価のための腸内細菌叢のタイプ分類方法」(特許第7193810号)

※2: Takagi, Tomohisa, et al. "Typing of the gut microbiota community in Japanese subjects." Microorganisms 10.3 (2022): 664.

評価モデルの活用イメージ

1 食介入による腸内細菌叢変化の評価

評価モデルを活用し、食の介入による腸内細菌叢の変化を評価いたします。特定の有用菌にターゲットを絞った変化や全体のバランスなど、評価項目は試験の目的に応じて調整が可能です。

2 食の介入試験における有効性評価の最適化

評価モデルを活用することで、食介入に効果がある人、ない人(responder/non responder)を評価し、「最もよく効くタイプ」など、有効性評価に関する情報を整理することが可能です。

研究事例

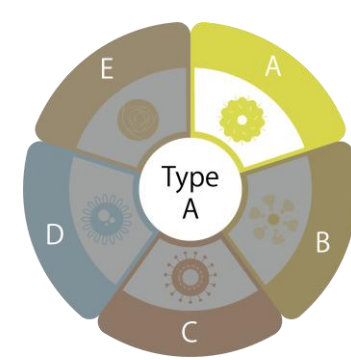
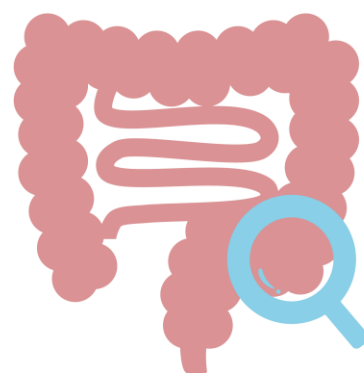


摂南大学と共同で、ランチを食物繊維豊富な弁当に置き換えた際の腸内細菌叢の変化を検証。細菌叢自体の変化のほかに、快便・快眠・疲労感軽減などの体感の変化が報告されました。

弊社として期待すること

① 精度の高い腸内細菌叢測定の普及

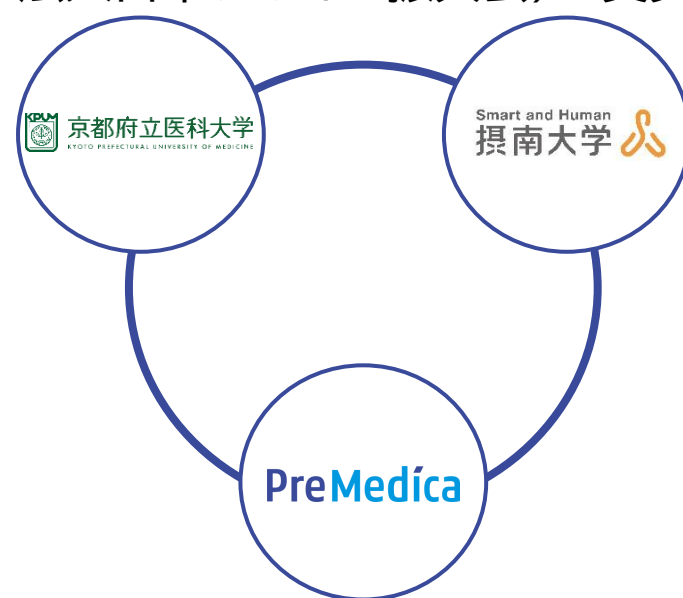
② タイプに応じた食品の開発・レコメンド



→これらを通じて、腸内細菌叢測定による健康の維持・パフォーマンス向上ができる社会の実現を目指します。

体制について

本検査は、京都府立医科大学様・摂南大学様・PreMedicaが共同で開発を行いました。この取組が評価され、2023年グッドデザイン賞(主催:公益法人日本デザイン振興会)を受賞しました。



大学との連携により、
・精度の高い被験者情報
・全ての解析手法を統一した
質の高いデータベース
の実現が可能となりました。

